

能登半島南部におけるカラタニイヌワラビの分布

中川定一
氷見市自然保護員 〒935-0004 氷見市北大町13-47

Distribution of *Athyrium × purpureipes* Kurata (Woodsiaceae) in southern part of Noto Peninsula, central Japan

Teiichi Nakagawa
13-47 Kitaoomachi, Himi-shi, Toyama 935-0004, Japan

はじめに

カラタニイヌワラビ *Athyrium × purpureipes* Kurata (Woodsiaceae)は、タニイヌワラビとカラクサイヌワラビとの雑種とされるシダで(岩槻1992)、分布は本州の新潟県以西、四国、九州であることが分かっている(倉田・中池 1994)。富山県は本雑種の分布の北限近くに位置しているが、倉田ら(1994)の分布図には富山県に打点が無かったことから、ぜひとも探し出したいと思っていた。その後の調査で、富山県氷見市を含む能登半島南部において、いくつかの分布情報が得られたので報告する。

同定

本種は両親種に似ていることはもちろん、別種のサキモリイヌワラビとも似ていて、識別が難しい植物である。富山市科学博物館植物標本庫に筆者がサキモリイヌワラビ(氷見市稲積産)だと思って寄贈した標本(Sp. 62553)には、村瀬正成氏によって「カラタニイヌワラビ」とのコメントが付されたこともある。

カラタニイヌワラビ、タニイヌワラビ、サキモリイヌワラビ3種の共通点は葉軸・羽軸が紫紅色をおび、葉の表面(羽軸と小羽軸の分岐点の表面)に白い棘が目立つことで、これだけで片親のカラクサイヌワラビおよび他の類似シダ類と区別できる。

筆者はこの3種を、葉身の大きさや形から次のように識別している。

- ・ 全体がすらすらと大きく、葉身が直立すること

が多い。羽片と羽片との間隔があいている・カラタニイヌワラビ(図1)

- ・ 葉身は卵状三角形～卵状長楕円形、小羽片は鋭頭～鈍頭、明るい緑色。葉身は直立しないで地面に傾き、小羽片が鋭く尖る……タニイヌワラビ(図2)
- ・ 葉身は三角形～卵状三角形、小羽片は鈍頭。全体が大きく、直立する葉身があり、暗い緑色。特に葉柄が太い……サキモリイヌワラビ(図3)

この他、生育環境や生育状況なども参考にしているが、中間的な個体もあり判断に苦しむこともある。

カラタニイヌワラビの分布

これまでに新潟県・富山県・石川県で得られているカラタニイヌワラビの分布情報は表1のとおりである。倉田先生採集の田鶴浜町赤蔵山産の標本は七尾市少年科学館で、TOYAの標本は富山市科学博物館で確認した。金沢大学の標本データは、太田道人氏が1985年頃に調べたデータを提供いただいたもので、筆者は未だ標本確認を行っていない。

これらの情報を元に能登半島南部におけるカラタニイヌワラビの分布状況を示したものが図4である。図には既知のタニイヌワラビとサキモリイヌワラビのプロットも入れた。図からは少なくともこの地域においては、上記3種の分布は重なっていることが分かる。

今回調査できなかった富山県朝日町や立山町産

今回のP点の再現性は、今後も調査木の形状がおおむね保たれて、コンクリート構造物が破壊されないことを前提としている。幹の大幅な形状変化や、幹にさらなる傾きが生じた場合には対応できない。もっともそのような状況に至れば軸線も変わるし地表面位置との関係も崩れるので、新しい軸線で測定し直すこととなる。



図6 a' - P間距離の測定状況



図7 b' - P間距離の測定状況

おわりに

筆者の一人米谷は、道路が未舗装であった昭和30年代(1955~1964)、調査木を含む松並木の地表面は道路とほとんど同じレベルかむしろ低かったことを記憶している。図説富山県の文化財〔県指定編〕(富山県教育委員会, 1996b)の182ペー

ジの写真も同様の状況を示している。その後、道路拡幅と舗装工事が行われた結果、車道の舗装表面は未舗装時より多少とも上がったと考えられる。ところが、現在の調査木の地表面は車道舗装面よりも高い位置にある。このことは、調査木の周囲には相当の土盛りや砂寄せ等が行われてきた可能性を示す。

過去の測定値が600cmを超えているのは、メジャーを水平に回したためだと思われるが、地表面が現在より低かったであろうことを考慮すると、メジャーが根上りの一部にかかる状態であった可能性も否定できない。

謝辞

図面を作成していただいた志波友子氏、古い報告資料を探索していただいた富山県教育委員会文化財担当岡本氏にお礼申し上げます。

引用文献

- 環境庁(編). 1991. 第4回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林調査報告書(甲信越・北陸版). 環境省・全国巨樹・巨木林の会・奥多摩町日原森林館. 全国巨樹・巨木林データベース2009年12月26日版. <http://www.kyoju.jp/data/>. 2010年1月9日検索.
- 環境省自然環境局生物多様性センター. 2008. 巨樹・巨木林の基本的な計測マニュアル.
- 館盛英夫. 1978. 越中街道と古志の松原. 松籟(1). 3-6. 古志の松原を育てる会.
- 富山県教育委員会. 1966a. 富山県の文化財.
- 富山県教育委員会. 1966b. 図説 富山県の文化財〔県指定編〕.
- 富山県教育委員会. 1984. 富山県の文化財.
- 吉沢庄作. 1923. 東岩瀬町、濱黒崎村間道路並木松. 富山県史蹟名勝天然記念物調査会報告第4号. 富山県.

のKANA標本の確認と現地における生育状況確認を含め、今後より広範囲に調査を進め、北陸地域の分布状況を明らかにしていきたいと考えている。

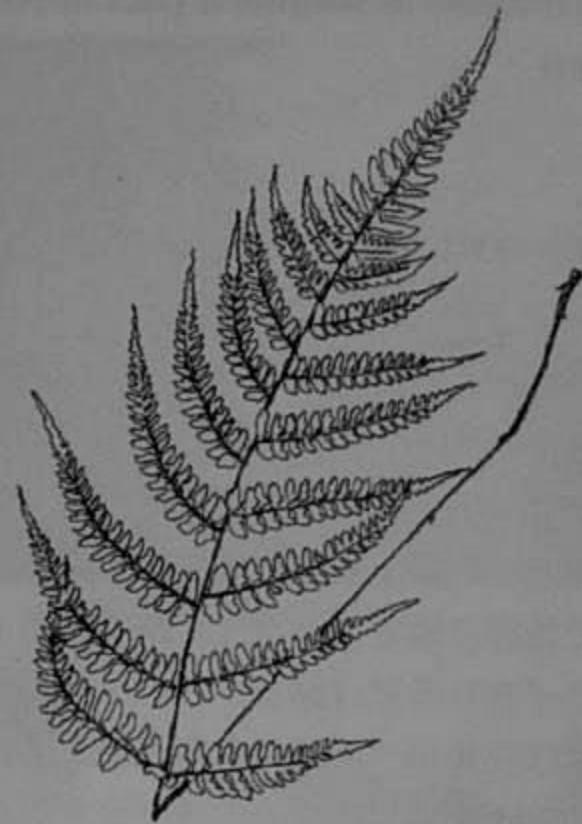


図1 カラタニヌワラビ

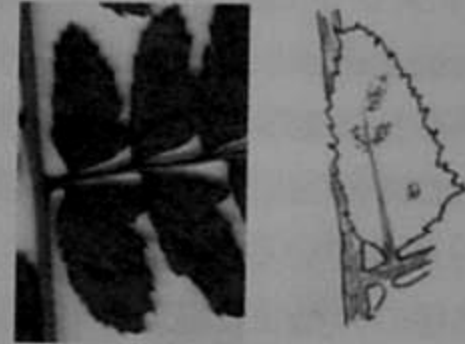


図2 タニヌワラビ

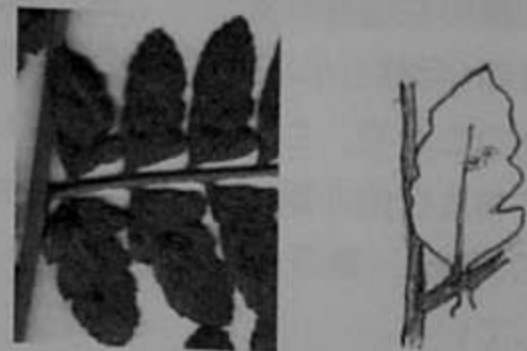
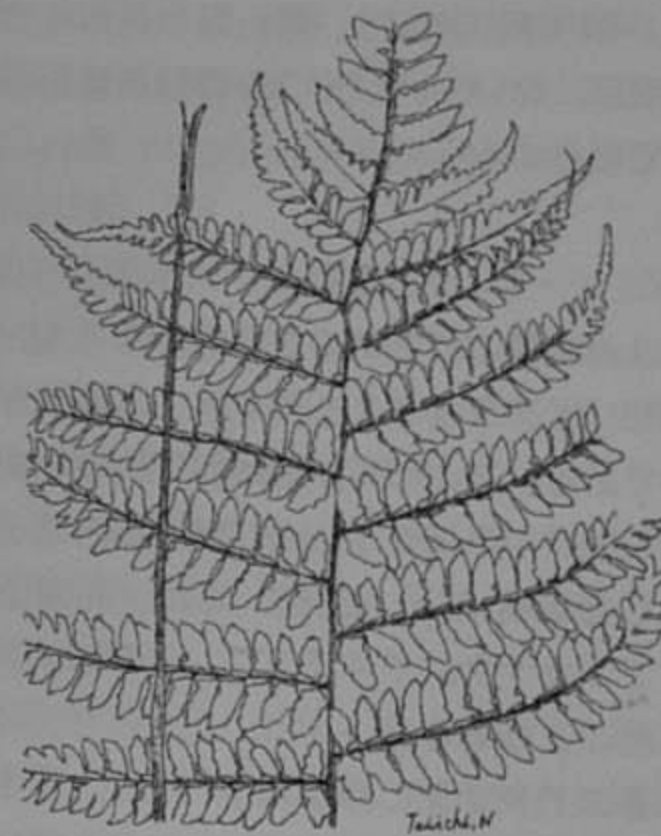


図3 サキモリヌワラビ

表1 カラタニヌワラビの分布情報

KANA: 金沢大学植物標本庫、TOYA: 富山市科学博物館植物標本庫、中川: 筆者が所蔵、七尾: 七尾市少年科学館

標本庫・出典	産地	採集日	採集者
倉田・中池(1994)	新潟県糸魚川市頭山	1971年	倉田悟
KANA 87577	富山県朝日町宮崎	1976年10月1日	柳沢浩
KANA 87576	富山県立山町白岩	1976年11月10日	柳沢浩
TOYA 62553	富山県氷見市稲積	2003年2月5日	中川定
TOYA 7761	石川県田鶴浜町三引	1975年7月31日	小路登
倉田・中池(1994)	石川県田鶴浜町赤蔵山	1976年	倉田悟
中川	石川県門前町八ヶ川ダム付近	2009年9月13日	中川定
中川	石川県七尾市七原	2008年6月23日	中川定
中川	石川県能登島町長崎	2009年9月13日	中川定
中川	石川県羽咋市上中山町	2009年9月13日	中川定
倉田・中池(1994)・七尾	石川県小松市滝ヶ原町	1972年	倉田悟

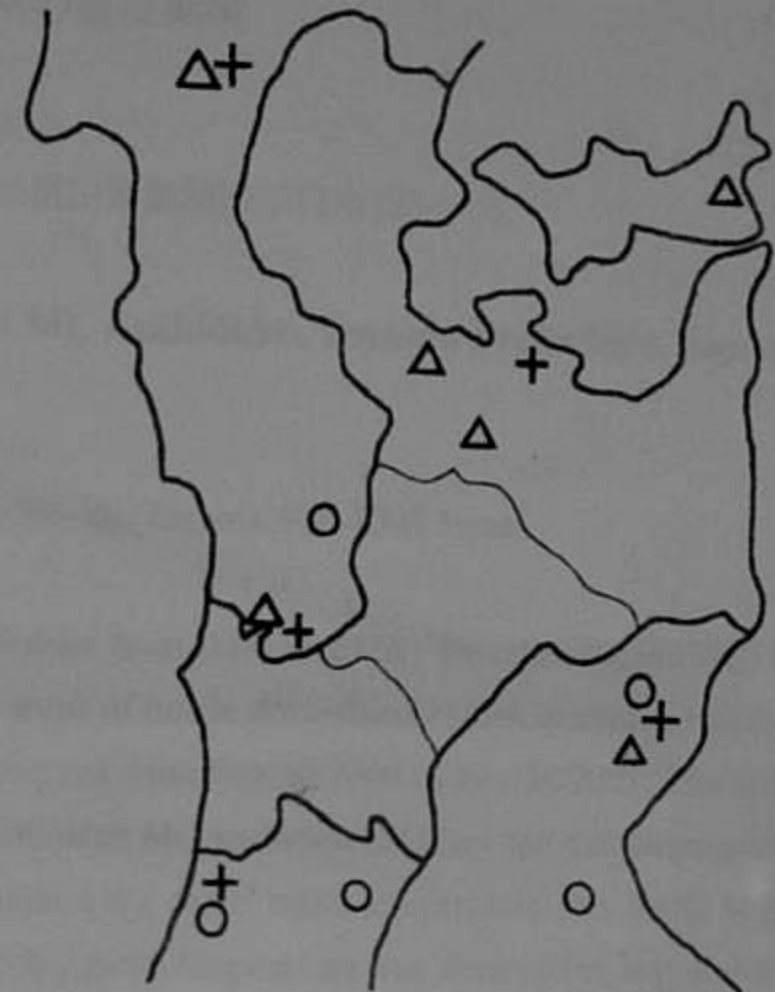


図4 能登半島南部におけるカラタニヌワラビ、タニヌワラビ、サキモリヌワラビの分布。

凡例と産地データ(北から順に配列): (△) カラタニヌワラビ; 門前町八ヶ川ダム付近、能登島町長崎、多鶴浜町三引、七尾市七原、羽咋市上中山町、氷見市稲積。(+) タニヌワラビ; 門前町八ヶ川ダム付近、多鶴浜町笠師、羽咋市上中山町、氷見市戸津宮、志雄町敷浪。(○) サキモリヌワラビ; 志賀町館、氷見市長坂、氷見市大浦、志雄町敷浪、志雄町所司原

謝辞

本報告をまとめるにあたり、富山市科学博物館の太田道人氏、七尾市少年科学館の川端義信氏にたいへんお世話になった。また、能登の山を歩く会の久保広子氏、林二良氏、俵京子氏、春間秀一氏、源内伸秀氏らには、分布情報の提供及び採集に同行して下さいました。深く感謝いたします。

引用文献

岩槻邦男(編). 1992. 日本の野生植物シダ. 311pp. 平凡社, 東京.
倉田悟・中池敏之. 1994. 日本のシダ植物図鑑7. 409pp. 京大学出版会, 東京.